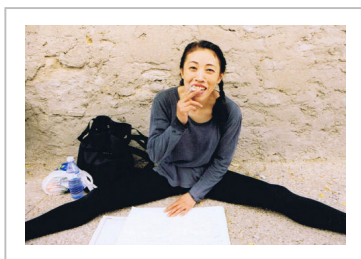


# 八重樫聖と飲む会 一周忌にて



本日はお忙しい中、聖と一杯やりに来てくれて  
ありがとうございます  
聖を肴にしてうんと楽しんでください

2014年2月24日プロト・シアター  
(上写真:1997年DA・M“Aruku”アヴィニョン(仏)公演にて)

## ご報告<聖の治療経過>

- ・2011年1月 本人乳房にしこりを感じる。が、大丈夫だろうと、目前の公演2つ Asia meets Asia 『狂人日記』(2月)とDA・M『Aruku』(3月)(東京―香港公演)に専念する。
- ・2011年5月 公演も無事に終わるが、しこりが大きくなっているため地元病院にて検査。乳がんと診断。乳房切除か温存か迷う。
- ・2011年6月～ 癌研有明病院に移り再検査。画像診断にて乳房周囲へ少し散っているのが分かる。治療に備えての精密検査が始まる。
- ・2011年8月～ 化学療法を開始。抗癌剤にて体調の波が出るため、本年 Asia meets Asia への出演を断念。10月、副作用のため丸坊主ながらも裏方にて参加者全員(20人分)の賄いを毎日用意する。皆がおいしそうに食べるのを見て嬉しそう。 本年末には病巣の影が大分小さくなり、少しホットする。
- ・2012年1月24日～2月3日～ 癌切除のため手術入院(乳房温存)。ほとんど切除できたかに見え、一安心。ドレーンは抜け、骨転移は治験薬でよくなったという。2月よりホルモン療法を試す。3月乳房全摘なしとのこと。放射線治療による体調に波が出るため3月DA・M公演への出演は控える。故郷盛岡での療養も考えるが、皆に会えなくなるので東京での治療を決意。
- ・2012年5月末～6月初め～ 3日間の再検査入院。好転を期待するもリンパ節への転移が見つかる。抗癌剤投与。痛み。本人は少しずつ覚悟しながらも念願の Asia meets Asia 初ツアー参加を強く希望。これまで同様、制作準備、プロト運営に携わりながらリハーサルにも参加。7月には自らも含めた全メンバーのツアー航空チケットを手配。担当医師にも投薬スケジュールをツアー日程から外すよう調整してもらいアジアツアー参加をととても楽しみにする。が、医師から身辺整理も言われる。

- ・2012年8月 皮膚、肝臓にも転移。5cm大。治験薬が効かない。稽古場では時折、胸や腕の皮膚の痛みを抑える仕草がみられる。時折、辛そう。が、気丈にプロットの運営や制作準備の仕事も自ら続ける。友人の勧めでハリ治療も試みる。花巻に帰省し5日ぐらいお墓参りなどする。
- ・2012年9月 肝臓がん6cmぐらい、皮膚がんも手術不可能とのこと。医師より緩和ケアの段階とのこと。医者からの強いアドバイスによりツアー出発2週間前に自らチケットキャンセル。無念。ツアー先での病状悪化による迷惑を避けるため。ただし、東京公演には体の持つ範囲で参加。アジアからの参加メンバー（昨年時に聖の病気を知る）がそれぞれ聖の回復を願い体にいいというお茶類を沢山持参。聖はこんなに飲めないと言われ、苦笑い。Asia meets Asia”Unbearable Dreams 6～Hope”が聖最後の舞台となる。聖に見送られ、聖を残しツアーにでる。10月戻り劇団活動は暫しお休み。聖も療養に専念。
- ・2012年12月～ 来年3月のDA・M公演に向けて皆と一緒にDA・Mトレーニングを開始。舞台に立つこと目指し少しずつ体力回復に努める。年明けて2度リハーサル参加するも体調がすぐれなくなる。腹腔にも転移し、水がたまっている。花巻の病院で緩和ケアを受けることを検討するが体力が持たないと結論。

以下、聖からの劇団への最後のメール2つです。

\*\*\*\*\*

【2013.1/19 日付】（この頃から稽古に参加出来なくなっています）

みなさんおつかれさまです。  
本日の稽古、お休みさせていただきます。

今日参加しないと個人的にも厳しいし、全体の作業も遅れてしまうとは思ったのですが、調子が悪く休ませて頂くことにしました。

すみません。

ホンさんにもごめんなさいとお伝え下さい。（※ホンさんはDA・M公演のため来日中）

中島さん 大橋さん  
すみませんが、みゅうのご飯お願いします。  
また湯たんぼの代わりにホッカイロがロビーの机の上に出してあります。  
プロト移出の際、それを2つ仕掛けて頂けますか。  
よろしくおねがいします。

ひじり

【2013.1/30 日付】（有明癌センターに入院する前日のメール。）

大橋さん 中島さん

明日朝に入院します。  
2. 3週間くらいといわれています。  
稽古が佳境になっているのにみれないこと残念です。  
プロトもお二人には無理をかけますがよろしくお願いします。  
また、みゅうをよろしくお願いします。

退院時には連絡します。  
舞台、どんなものになっているか、  
楽しみに養生します。

朝晩まだまだ寒いですが、お体に気を付けて。

ひじり

\*\*\*\*\*

- ・2013年1月31日 腹部にたまった水除去のため再入院。劇団の制作仕事をするためPCを持ちこむが、痛みがとれない。肝臓の小さい癌は増え続けていく。緩和ケアに入る。2月はじめは中島、大橋それぞれ見舞うもまだ冗談を言うほど元気。が、次第に体力が衰弱していく。ご姉妹の方々が上京して交代で世話をする。亡くなる前より次第に意識が混濁し始める。大橋の顔を見るとカッと目を開いて「(稽古を休んで) すみません」と繰り返す。「大丈夫だよ 心配ない、だから、そんなに頑張らなくてもいい」と言うと安心して眠る。看護師さんからは舞台復帰への一心で体を持たせていたとのこと。

中島彰宏より

\*\*\*\*\*

入院をして一週間経った頃、1回目のお見舞いに行きました。まだ起き上がることも出来ず、点滴を付けたまま喫茶室で一緒にお茶を飲み、公演のリハーサルの話をしました。持参していたフランシス・ベーコンの本を見せ「久しぶりに衝撃を受けました」と話すと「それは大切にされた方がいいよ」と言ってくれ「確か自宅にも何冊か本があったと思うんだけどな」と、楽しそうに想いを巡らせてくれていました。ただペットボトルの蓋を開けるのも辛そうで、持ち込んだPCを取り出すのも難儀で、私が取り出して接続を手伝いましたが上手く繋がらず「明日専門の業者に来てもらおう」と、皆とメールのやり取りをし、リハーサルの進行を知りたがっていたように思います。持ち込んだ本も、ぼんやりと読みながら時間を過ごしていました。

また一週間経った頃、2回目のお見舞いに行きました。4人部屋から個室に移動し、ベッド上で体を起こすのも辛そうな状態でしたが、公演のチラシを見せると笑みを浮かべ、看護婦さんにも劇団や公演のことを、伝えてくれていました。ご親族の方も岩手から上京し、交代で付き添って来ていました。

亡くなる前日に最後のお見舞いに行きました。最上階の緩和ケア病棟の居室へ移動し、ご親族の方も、付き添い見守ってくれていました。意識は薄れている状態でしたが、私の顔を見ると、はっきりと目を開き、笑みをみせてくれました。公演ポスターを見せると、安心したように、もぞもぞと何かを言っていたように思います。コーヒーが飲みたいと、ご親族の方が吸飲みでコーヒーを一口飲ませてくれていました。時折眠りに入ってしまうので、会話はままなりませんでしたが、「僕も頑張ります」と伝えると、満面の笑みを見せてくれたことを覚えています。

喫茶室でご親族の方ともお話しをしました。聖さんが東京で、どのような活動をしていたか、どんな人に囲まれていたのか、ほとんど知らなかったようです。ひじりさんがどれだけの人に慕われていたかをお話すると、本当に嬉しそうに聞いてくれていました。病院の話では、ほぼ憔悴状態でここまで持っているのが、信じられないこととのことでした。ご親族の方が「大橋さんのことを、きっと待っています」と言ってくれました。すぐに大橋さんに連絡をし、大橋さんが向かってくれました。聖さんは、大橋さんのことを待っていていたんですね。最期に会うことが出来て、よかったね・・・。

\*\*\*\*\*

- ・2013年2月20日 早朝兄弟親族に身守られて他界。とても安らかで美しいお顔でした。 合掌

# 八重樫聖出演公演記録

-1980～2012-

Aは、いらち、つまりせっかちである。尋常ではない経歴として中学の体育5段階評価で1を2度取っているのだが、「早く終わらせた競技、短距離走」はいらちのおかげで減法速かった。当時岩手県中学女子100メートル走記録を更新したことがある。今はいらちのおかげで自転車が速い。Aの自宅の東中野から横浜まで1時間45分、川口45分、麻布は30分という。演劇は80年から始めた。いらちが随分長いこと走っている。何度もつまづきながら……  
Aにいらちから開放される時は来るのだろうか……(劇団DA・M HPより)

- 1980.11 哥以劇場 (主宰・演出:樋口孝之、作家:岸田理生) 入団。演劇活動開始
- 1980.12 哥以劇場『八百屋の犬』早稲田劇団木霊アトリエ
- 1981.6 哥以劇場『さんせう太夫』赤坂国際芸術家センター
- .11 中池眞吉プロデュース『双頭の歌』早稲田大学大隈講堂裏特設テント  
一幕◎昭和精吾 寺山修司の叙事詩『李庚唄』  
二幕◎森田童子と黒い天使の四重奏
- 1982.5 岸田理生事務所『恋唄くづし 火学お七』アトリエフォンテーヌ
- .8. 岸田理生事務所『花札伝綺』渋谷ジャンジャン
- .12. 楽天団『ハノーヴァの肉屋』スタジオあくとれ
- 1982.12 岸田事務所+楽天団 (演出:和田喜夫、作家:岸田理生 共同主宰) 創立に参画
- 1983.3. 岸田事務所+ 楽天団『火学お七』ザ・スズナリ
- .8. 岸田事務所+ 楽天団『青森県のせむし男』渋谷ジャンジャン
- .11. 岸田事務所+ 楽天団『青森県のせむし男』沖縄ジャンジャン/大阪オレンジルーム
- 1984.3. 岸田事務所+ 楽天団『宵待草』ワークショップ スタジオあくとれ
- .5 岸田事務所+ 楽天団『糸地獄』アトリエフォンテーヌ/スタジオあくとれ
- 1985.5 岸田事務所+ 楽天団『改訂版ハノーヴァの肉屋』スタジオあくとれ
- .8 岸田事務所+ 楽天団『八百屋の犬』ベニサンピット
- .11.12 岸田事務所+ 楽天団『恋 其の壱』江東区文化センター(東京アートセレブレーション参加) / ザ・スズナリ
- 1986.3 岸田事務所+ 楽天団『宵待草』渋谷ジャンジャン
- .5 岸田事務所+ 楽天団『眠る男』ワークショップ スタジオあくとれ
- .8-9 岸田事務所+ 楽天団『恋 其の弐』利賀山房 (利賀フェスティバル参加)  
/名古屋七ツ寺共同スタジオ /大阪扇町ミュージアム・スクエア/東京T2スタジオ
- 1987.3-4 岸田事務所+ 楽天団『宵待草』渋谷ジャンジャン /下関シーモールホール  
/博多秀巧社ホール/沖縄ジャンジャン/大阪扇町ミュージアム・スクエア
- .6.8 岸田事務所+ 楽天団『糸地獄』ベニサンピット/松本あがたの森講堂(松本演劇フェスティバル参加)
- .11 岸田事務所+ 楽天団『恋 其の参』ベニサンピット
- 1988.10 シアターアプルプロデュース 『浅草紅団』シアターアプル
- .12 岸田事務所+ 楽天団『料理人』ベニサンピット
- 1989.4 岸田事務所+ 楽天団『フォー・レターズ』スタジオあくとれ
- .7 岸田事務所+ 楽天団『料理人』利賀山房 (利賀村フェスティバル参加)
- .9 岸田事務所+ 楽天団『料理人』MZ A有明
- 1990.1 岸田事務所+ 楽天団『出張の夜』タイニイ・アリス
- .11 岸田事務所+ 楽天団『糸地獄』東京国際演劇祭参加 練馬文化センター (小ホール)
- 1991.3 岸田事務所+ 楽天団『宵待草』相鉄本多劇場
- 1992.2-3 岸田事務所+ 楽天団『糸地獄』(オーストラリア公演) パース ニューフォーチュンシアター

- 1992.12 アデレイド スペースシアター  
岸田事務所+ 楽天団『隠れ家』スタジオあくどれ
- 1993.3 岸田事務所+楽天団退団。以降フリーとして活動**
- 1993.3 元祖演劇の素いき座公演『阿呆列車' 93 』
- 1994.3-5 ぼっかめろん『麗しのキメラ・嘆きのキメラ』大阪・ウイングフィール／横浜・相鉄本  
多劇場／東京・中野テルプシコール／下北沢ルイン /東京・アトリエMODE／  
八戸・spaceBEN  
華翔企画『白夜』スタジオアクトレ
- 1995.5 ぼっかめろん『風につれなき物語 monologue』タイニイアリス  
.10 ぼっかめろん『nuitsentimentale—感傷的な夜—』ROCKMOTHER／THEATERPOO  
『日々の彼女』
- 1996.11 DA・Mへ客演 以降全公演に参加**
- 1996.2 DA・M『Lesson』恵比寿 EastGallery  
.4 ぼっかめろん『nuitsentimentale・II—感傷的な夜』タイニイアリス  
.5 ん・ごま企画『アナタ教』（'96主演）なんでも小屋 NGOMA  
.8 ぼっかめろん『ポエジー』葉山・森戸海岸／海の家『FLAT』  
.9 DA・M『分裂』『夢意地のはった人たちのお話』（ライフシリーズ2・3）プロト・シアター
- 1997.3 DA・M『So What！たとえば偶然の花嫁、必然の花婿』恵比寿 EastGallery  
.7-8 DA・M『Aruku』（Avignon Festival Off アヴィニョン、フランス）Lu Funambule  
.10 DA・M『即興演劇のための習作～Walking』（第1回 Asia meets Asia '97 参加）  
.11 ぼっかめろん『カフカ短編集』シアターPoo
- 1998.1 DA・M『アルク／Walkin』世田谷パブリックシアター  
.3 DA・M『ブルーベリーの丘の上で』（ライフシリーズ6）プロト・シアター  
.6 ぼっかめろん『存在と時間』スタジオ・アクトレ  
.11 DA・M『真っ昼間の地平線』（'98 Asia meets Asia 参加）プロト・シアター
- 1999.3 DA・M『Il Vulcano』プロト・シアター  
.12 ぼっかめろん『自転と公転』ウェストエンドスタジオ
- 2000.1 DA・M劇団員となる。プロト・シアター、及び Asia meets Asia 等の運営にも携わる。**
- 2000.7 DA・M 新人公演『PEANUTS』  
.10.11 DA・M+Clash 共同公演『Unbearable Dream』香港アーツセンター
- 2001.9 DA・M 新人公演『トマトをたべるのをやめたとき』プロト・シアター  
.11 DA・M/Asia meets Asia『トマトをたべるのをやめたときII』プロト・シアター
- 2002.3 DA・M『Yes,』麻布ディプラッツ  
.9 DA・M『トマトをたべるのをやめたとき』ラオコオン・サマーフェス公演  
Kampnagel, Humburg（ハンブルグ、ドイツ）
- 2003.3 DA・M『トマトをたべるのをやめたとき』麻布ディプラッツ  
.10-11 Asia meets Asia “Unbearable Dreams 2”プロト・シアター／台北公演 Asia Pacific Little  
Theatre Festival:
- 2004.4 DA・M “Aruku” キルギス国際芸術祭 Russian Drama Theatre ビシュケク、キルギス  
.9 DA・M “Aruku” Art Summit IndonesiaIV公演 The Graha Bhakti Budaya ジャカルタ
- 2005.3 DA・M『Hap Py Birth Day はっふ ぴい ばーすでい』プロト・シアター  
.10 Asia meets Asia “Unbearable Dreams 3”（アジア共同創作公演）プロト・シアター  
.12 DA・M 八重樫聖ソロ『SとCの隙間とカケラ Vol.1』（原作／『小間使い日記』オクターブ・ミルボー）
- 2006.2 DA・M 八重樫聖ソロ『SとCの隙間とカケラ Vol.2』プロト・シアター

## 【八重樫執筆のプロフィール】より

大学では絵を学んだが、絵とは係累を持たない企業経理という職に就き、2年の会社事務員を経験。その後、1980年、哥以劇場（主宰・演出：樋口隆之、座付き作家：岸田理生）入団より演劇活動開始。82年、身体演技に重点を置く演出家和田喜夫と、寺山修司に師事したのち、詩的散文と呼びうる独自の戯曲世界を紡ぎだしていた作家岸田理生共同主宰による岸田事務所+楽天団の創立に参画。93年退団までの全34作品参加、29作品出演。代表作に『恋其の式』（86利賀フェスティバル）、『糸地獄』（84、'87松本演劇祭、'92パース・アデレードフェスティバル）等、他『フォー・レターズ』主演（'89）、『出張の夜』主演（'90）。93年よりフリーとなり、企画公演出演及び他劇団客演で活動。96年劇団DA・M公演『LESSON』参加、出演にて、DA・Mの現場と出会う。予定された出来事としての戯曲の下、演劇を続けてきた私にとって、“物語の明るく日”、あるいは“物語以前”の現場・作業との出会いは、新しい地平だった。以来、DA・Mに留まり、7年目である。

- 2008.3 DA・M『Random Glimpses／でたらめなわけ、』プロト・シアター  
 .7 青蛾館公演『恋火』（リオフェス参加作品） 駒場アゴラ劇場  
 2009.4 千賀ゆう子企画公演「S」シリーズ「ドラマリーディング『吸血鬼』岸田理生台本による」  
 .6-7 ユニットRリーディング公演『水妖記』リオフェス参加作品  
 千賀ゆう子企画公演『吸血鬼』リオフェス参加作品  
 .12 Asia meets Asia “Unbearable Dreams 4～Lost Home”（アジア6都市共同公演）  
 2010.2 DA・M『夜がやってきてブリキの切り屑に映るお前の影をうぼうだろう』  
 .3 ぼっかめろん『Endless Night ～月に浮かぶ海～』阿佐ヶ谷 LoftA／下北沢 RUIN  
 .6 理生さんを偲ぶ会 リオフェスティバル日韓合同特別公演『リア』座・高円寺  
 .10 Asia meets Asia “Unbearable Dreams 5～Return”（アジア7都市共同公演）  
 2011.2 Asia meets Asia 魯迅『狂人日記』（東アジア4都市共同公演） 森下スタジオ  
 .3 DA・M改訂『aruku／アルク 2011』（東京+香港 Jccac Black Box Theatre）  
 ※八重樫聖 DA・Mでの最後の公演となる。当公演後病気が発覚。  
 同年秋 Asia meets Asia、翌年 DA・M 公演には参加できず。  
 運営・制作にて公演を支える。特に賄いにて海外からの来訪者を歓待する。  
 2012.9 Asia meets Asia<Asia Tout> “Unbearable Dreams 6～Hope”<アジア7都市共同公演>  
 ※八重樫聖最後の舞台となりました。おつかれさまでした。

\*\*\*\*\*  
 聖ちゃんへ DA・Mに入団した当時は、稽古場で何か問いかけると、いつもフニャーとなってモグモグしていたね。でも終わって飲むと元気なんだけど。そんな貴方が、いつ頃か、とても強くなっていた。そう、劇団の公演が出来なくなっていたとき、貴女は進んで自分のソロ公演をやってくれた。あのとき、毎日心の中で泣きながら稽古場に通っていたんだよね。その小さな体を震わせながら、もういやだ、あたしには出来ない、もうやりたくないってね。でも貴女は、決して逃げなかった。演劇を、観客を裏切りたくなかったんだよね。それが貴方の優しさなんだ。それからだろう。貴女がいつの間にか、僕や劇団員の強い支えになっていたのは。僕が何かグチグチしていると、それはDA・Mのやりたいことじゃない、って、いつも叱咤激励してくれた。何度も貴女の言葉に助けられ勇気づけられ、最後はすっかり貴女に頼りきっていたね。そう、聖ちゃん、とっくにあなたはあの“いらち”から開放されていたんだ。よかったね。なんて思っていたら、チクショー！やっぱりお前はまだまだに“いらち”だ、おバカさんだー、こんなにあわてて逝くんだから。一人がんと闘っている貴女を前に僕がアワワと取り乱したりしていた時、あの優しい微笑みで静かにそっと言ってくれた。大丈夫よー っ。ありがとう。僕たちはあなたのくつきりと空間を切り取る美しい立ち姿を忘れない。

お詫びとお願い この活動記録は、劇団DA・M及び岸田事務所+楽天団の資料を中心に作成させて頂きました。また不明箇所を確認させて頂いたり、お写真をおよせ頂きました関係者の方々にはご協力いただきありがとうございました。しかし聖ちゃんの活動は長く幅広いものでした。もし記載に間違い及び不足がありましたら、どうぞお許しください。その際は、訂正・追加情報を大橋のほうまでお知らせくださいますようお願いいたします。後ほど、劇団HPにてより完全な八重樫の出演記録を掲載させていただきたく思います。ご協力のほどよろしく願いいたします。

劇団DA・M／Asia meets Asia 大橋宏